

東京海上日動パートナーズ東北の防災セミナーで講習を実施しました（2025/1/17）

テーマ：地震学・防災コミュニケーション学・地震保険の歴史とその役割

会場：災害科学国際研究所

URL：<https://www.tnpgrp.co.jp/tohoku/index.html>

2025（令和7）年1月17日（金）、災害科学国際研究所のセミナー室において、損害保険の代理店業を営む東京海上日動パートナーズ株式会社の防災セミナーが開催され、当研究所の福島准教授（防災コミュニケーション学分野／陸域地震学・火山学研究分野）と鎌田健一特任教授（地震津波リスク評価（東京海上日動）寄附研究部門）が講演しました。

東京海上日動パートナーズ東北は東北6県に18支社の拠点をもち、従業員200名を超える会社で、当日は36名の社員が対面で参加されたほか、オンラインで全国のグループ会社も含めて160名を超える社員が視聴されました。このセミナーは同社が東日本大震災から10年の節目に開始した「3.11 リボンプロジェクト」のメンバーが中心となって企画し、阪神淡路大震災からちょうど30年を迎えるこの日に、震災の教訓を繋ぐきっかけになるような防災セミナーを当研究所で開催したいとの要望から実現したものです。

セミナーの開始にあたって、被災された方々に捧げる黙とうの後、冒頭のあいさつで、当研究所の栗山進一所長が、命を守るための備えと行動と、そのための行動変容を起こすことの大切さについて講話を行いました。

続いて、福島准教授が地震、特に全国各地に存在し、被害の大きな直下型地震を引き起こす活断層型地震のメカニズムや、被災要因についての知見を披露すると共に、被害を軽減するために実際に行動をおこすために必要な介入について等、防災コミュニケーション学の研究の取り組みを紹介しました。

最後に、鎌田特任教授が、関東大震災が我が国の地震保険に重要なエピソードになっていることの紹介と、地震保険の歴史と普及の経緯、地震保険の復旧・復興への貢献について説明しました。

セミナーの参加者は、普段の業務がお客様の万一のリスクに向き合う内容でもあり、また災害時にもお客様の相談の窓口を担っていることもあって、約2時間に及んだセミナーも終始とても熱心に聴講され、また事後のアンケートでも「とても参考になった」と「参考になった」の割合が99%となって極めて満足度の高いセミナーとなりました。またお客様に対する防災の呼び掛けのきっかけになるようなアイデアも数多く寄せられていました。

当研究所では民間の事業者とも連携した防災推進活動の支援をしております。



挨拶をする栗山所長



福島准教授による講演の様子